

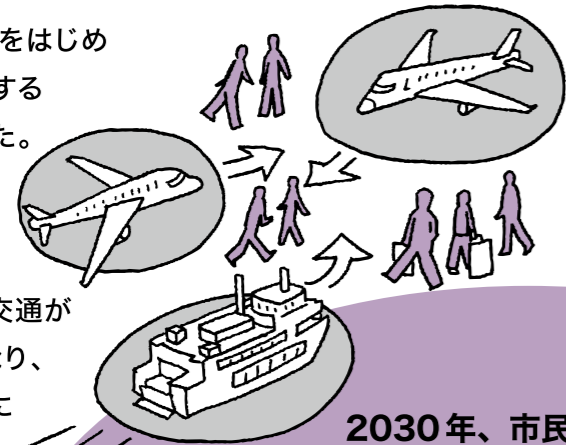
エリア連携によるユニークな魅力の相乗効果で
インバウンド観光客が増えた。

台湾・インドをはじめ
世界へ挑戦する
企業が増えた。

圏域の公共交通が
使いやすくなり、
往来が盛んになっ
ている。

エリア内の
移住・定住者が増えた。
健康で長生きできるまち
としてのイメージが浸透。

環境保全に関する
イベントや取組が
活発化。
自然学習を通じて、
子ども同士の
交流が進んだ。



台湾・インドとの間で
企業交流が活性化。
商取引が増えている。

2030年、市民の実感

宍道湖・中海を 囲むエリアは ひとつのまち



新幹線の整備促進に向けて、
エリアが一体となって取り組んでいる。

圏域各市の特徴ある地域資源を活用し、
域内でコラボすることでそれぞれの
地域産業が発展している。

中海・宍道湖を囲む「8の字ルート」の
早期完成に向けた取組が着実に進んでいる。



目標

中海・宍道湖・大山圏域人口

60万人(2060年)

松江のチャレンジ

●5市の共通課題の解決に共同で取り組む仕組みをつくりま
す。圏域住民への周知・意識啓発を行います。

●脱炭素社会(カーボンニュートラル)(※)の構築や、医療・福祉面の
余力の融通などに、圏域全体で取り組みます。

※カーボンニュートラル…二酸化炭素の排出量と吸収量が差引ゼロの状態になることを目指す概念のこと。

●中海・宍道湖・大山圏域(※)の地域資源を5市住民が相互に楽しむ
マイクロツーリズム(※)を推進します。

※中海・宍道湖・大山圏域…米子市・境港市・松江市・出雲市・安来市の5市と鳥取県西部7町村のエリア。

※マイクロツーリズム…住民が地元や近隣地域で行う宿泊観光や日帰り観光。

私のチャレンジ



